



星とくらす 波照間島

波照間島の星と暮らし

空や風、星、植物の息吹や咲く様子、渡り鳥、回遊魚――。

八重山諸島では、昔から農作業や航海の指標として
自然の変化から季節の移り変わりを敏感に予知してきました。

ムルブスイ、タタスブスイ、ウトゥナブスイ……

島ごとに独自の呼び名がついた星たちは
見晴らしのよいところで日々決まった時刻に観測され、
農作業の目安として役立てられてきました。

こうした星にまつわる唄や伝説は、
いまでも大事に語り継がれています。

ではなぜ、それほどまでに真剣に星と向き合ってきたのでしょうか。

それらをひもといていくと、
いつの時代も、農業を中心に自然と寄り添った暮らしが
この島にあったことがうかがい知れます。

長年、大切にされてきた、暮らしの星たち。

人工的な明かりが少ない波照間島では、
いまでも昔と同じように星を眺めることができます。

受け継がれてきた知恵には、
いまの私たちの暮らしにも必要なヒントが秘められているはずです。

星に学び、島を知る――。
きっとあなたがまだ知らない波照間島を、一緒に訪ねてみましょう。



波照間島はなぜ星の島？

Yaeyama Islands

日本一の星空ともいわれる、八重山諸島。

天体観測の障害となる気流の影響が少なく大気安定していることや、日本の最南端に位置しているため、南十字星をはじめ他の地域では見ることができない南の星座も含めて広範囲に観察することができます。

その八重山諸島の中でもっとも南に位置する波照間島は、「星の島」ともいられています。人工的な明かりが少ないため、夜になると満天の星が島全体を包み込みます。それだけではなく、昔から波照間島は、星とはきってもきれないきずなで結ばれてきました。

波照間島ならではの星のエピソードをご紹介します。

南十字星

サザンクロス

12月から6月頃まで南の水平線近くに姿を現します。北半球である日本では完全な十字の形を見ることが難しい星ですが、八重山を含む先島諸島では完全な十字をきれいにすることができます。

1994年に完成した波照間島星空観測タワーは、日本最南端の公開天文台です(現在は老朽化に伴い休館中)。

星は島の農業や神行事、暮らしの中で大切な役割を果たしてきました。

かつて、波照間島には北集落の北方の見晴らしのよいところに星を観測する特別な場所があり、そこに古老や神事を執り行う「司(つかさ)」、役人などが集まって神行事の日取りを定めていたそうです。



波照間島独自の星の呼び名



スカマブスイ

仕事の始まり、
終わりを合図する星

金星は「明けの明星、宵の明星」と呼ばれますが、波照間島では「スカマブスイ」と呼びます。「スカマ」は仕事のこと。波照間島の人々は、朝方にこの星が見えると畑に出かけ、夕方にこの星が見えると農作業を終えて帰宅していたので、このように呼んでいました。

ニヌファブスイ

北極星

2等星ですが、航海においてとても重要な星です。また、波照間島では家やお墓をつくるときの向きの基準にもされてきました。ニヌファブスイから少しだけずらして建てることで冬の寒い北北東の風を避け、夏の南風を取り入れやすくしています。



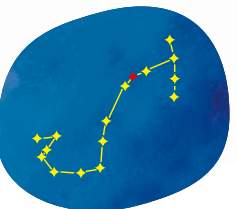
まるでお香の煙が風でなびくように時間とともに角度をかえる天の川の様子を見ることができます。

天の川は沖縄では一般に「ていんがーら」と呼ばれますが、日本一長い天の川を見ることができる波照間島ではウナギに見立てられたり、「カンヌブス(神の尻尾)」と呼ばれたりしていました。7月の大暑・土用を迎える頃、天の川のもっとも明るくて幅のひろい部分が南の空に現れ、南北に流れるのが見えます。

ビタコリブスイ

酔っぱらいオジイがウナギ釣り!?

天の川のウナギの口のように見える辺りに釣り糸がたらされ、釣り針がウナギをひっかけているように見えます。そのつけ根にある赤い星(アンタレス)はさそり座の赤い心臓部分。この星をウナギを釣るオジイがお酒を飲んで顔を赤らめると見立てて、「ビタコリブスイ」(酔っぱらい星)と呼んでいます。



波照間島の一年 農と星

波照間島はいまも農業が盛んですが、昔はムルブスィを中心にした星の観察が農耕や神行事において重要な役割を担ってきました。
1年中温暖な島の中で、季節の変わり目を告げる合図となっていたのです。

ムルブスィ

「ムルスネヌアミ」の頃 麦の種まき

9月 秋雨前線の雨期を過ぎて10月に入ると夜空は晴れわたり、22時頃に東の空にムルブスィ（スバル）が見えてきます。この頃になってたまに降る小ぶりの雨を「ムルスネヌアミ」（ムルブスィの時期の雨）と呼び、この雨を見越して麦の種がまかれました。

穀物の栽培期間を知らせる

10月 夕刻早い時間に東にムルブスィが見えてくる頃から、夕方西の空に沈んで見えなくなる頃までの間に、穀物の栽培が行われてきました。

田植えの準備始め

1月 ムルブスィが夕方の早い時間に頭上に見えます。それを見て、苗代をこしらえて田植えに備え始めました。主食となる大切な穀物の始まりのサインです。見逃すことはなかったことでしょう。



タタスブスィ

田起こしのサイン

11月 下旬から12月上旬 夕方に真東からオリオン座の三つ星が上がってきます。この時、三つの星が縦に立ったように昇ってくるため、タタスブスィと呼ばれています。このタタスブスィが早い時間に見えだすと、まとまった雨がわりとよく降るようになります。この雨は「タタスネノアミ（雨）」と呼ばれ、田起こしが始まる合図となっていました。

サシバ到来



ミーニシ（新北風）

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

●現在の波照間島：サトウキビカレンダー

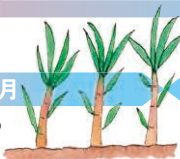
波照間島では夏に植えて、1年半後の冬に収穫するのが一般的で、その他2月に植えて翌春に収穫する春植えもあります。
1つの畑を分割して毎年交互に植えます。

8月・9月 植え付け スタート



10月、11月

この頃になると茶色の茎が目立ってきます。



10月～4月成長中



12月～4月



製糖工場

収穫期。刈り取ったキビは新鮮なうちに加工します。

ウリズン

ユドゥアミ（梅雨）

バガナツ



背が高くなり、青々としてきます。

5月～9月

カツオ漁



ムシャーマ

台風
シーズン

ニシナナツブスィ 雑穀の種まきどき

3月 波照間島では春分の少し前から晴れ間が見られるようになります。その頃に晴れた北東の空にニシナナツブスィ（北斗七星）がニヌファブスィ（北極星）の東側で立って見えます。これを合図に、畑では雑穀の種がまかれました。



ウトゥナブスィ

収穫準備の目印

4月 東の中天に見えるオレンジ色の明るい星。この星が見えると田んぼの最後の草取りが行われました。収穫に向けての段取り開始です。



カーチベ

ペーブスィ

カーチベが吹き、 夏の訪れです

6月 夏至の頃、ペーブスィは日没後に見えるようになります。ケンタウルス座のα星とβ星は波照間島では「ペーブスィ」（南の星）と呼ばれてきました。そして、強い南風「カーチベ（夏至南風）」が吹き始めます。もうすぐ梅雨明けです。この風の影響で海はしけて、空は曇りがちになります。

7月 ペーブスィが水平線に平行に並び、明るく輝きます。これは波照間島の人にとって、「カーチベが止み、（ペーブスィの2つの星が波を抑えてことで）海が凪ぎ、干ばつと台風の時期が来る」合図とされていたそうです



星が大切な役割を果たした

アバアミ(油雨)の話

大昔、周囲15kmほどの小さな島、波照間島は海の幸、山の幸に恵まれ、豊かな自然の中で平和に暮らしが営まれていました。そのため島の人口が増え、やがて島の隅々まで耕作しても食糧が足りなくなると盗みをしたり、強いものが弱いものに対して殺しをしたりと、悪いことをする人も出てきました。

怒った天の神様は、心の正しい一組の男女を海岸近くの洞穴に隠すとアバアミ(油雨)を降らせて、島を焼け野原にしてしまいました。

生き残った二人はこの洞穴で暮らし、やがて子どもをつくりましたが、最初の子は毒をもつ魚、ボーズ(ミノカサゴ)でした。

二人は「ここは人間が住む場所ではない」と考え、陸に上がったところにある洞穴に移り住み、そこで二人目の子どもをつくりましたが、今度は毒をもったムガジ(ムカデ)が生まれてきたのでした。



そこで、二人は天の神様に祈りました。

どうか、かわいい人間の子どもをさずけてください

すると、天にユツアスイブスイ(四辺形星)がひとときわ明るく輝きました。

二人は、その星にならって4本の柱を立てて家をつくり、その家で初めて人間の女の子が生まれました。アバアミで一度滅びた島は、この女の子を祖先として再生していったといわれています。そのため、この女の子はやがてアラマリヌパ(新生の女=婆)と呼ばれるようになりました。彼女のお墓は波照間島にあり、豊年祭のアミジュワの日に参加されていました。



波照間島で家を新しくつくり
屋根をおおった晩に歌われる
「ヒースクリジバラ(家づくりジバラ)」の
一番の歌詞にもユツアスイブスイ
(四辺形星)が出てきます。

★ジバラとは…八重山に古くから伝わる歌のひとつ。

ゆつあすいてーそ	(四辺形星を)
やーなうーばし	(もとにして)
やーばちくーり	(家をつくった)
あんちょー	(そうな)
うりやみょーなちゃ	(それはよろこばしいことよ)

(『竹富町古謡集』<第3集>参照)

タタスブスイとクジラ



遠い昔、親に田起こしを命じられたが、それがおっくうに感じた息子は、「そうだ、潮干狩りをしてからにしよう」と連れていた牛と共に浜辺に降りていきました。それを見た神様はこらしめようと津波を起こし、彼らを流してしまいました。流された牛はクジラになり、タタスブスイが見える時期には波照間島近郊に姿を見せ、なつかしさのあまり潮を吹いて合図を送るようになったといわれています。



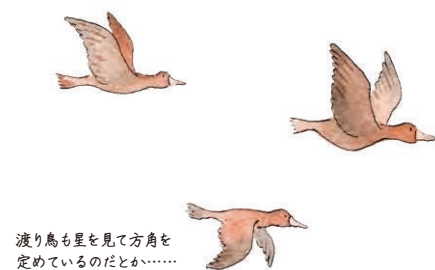
天を読む、 波照間島のくらしの知恵

“星見”で季節を知る

八重山には星を観測する星見石が各所に残っています。農作業の時期や季節を知るために、1680年頃に各村につくられたそうです。

波照間島においても、“星見”によって穀物の種まき時期を測っていたという古い記録が残っています。星見石ではないかと思われるものが現存しているほか、かつては北集落北方の見晴らしのよいところにその役割を担う場所がありました。ここでは農耕の計画だけでなく、古老や司などが集まり、神行事の日取りが決められました。

波照間島の神行事は、農業や漁業と深く結びついています。ムルブスイが明け方に見える時期（7月初旬）にカツオ漁が行われ、夜半前に見える頃（10月頃）に農作業や神事が始まります。



渡り鳥も星を見て方角を
定めているのだとか……



星見石を使って、ムルブスイの高さを測り、粟や稲の種まきの時期を知ったといわれています。昔の人がこの石を使ってどのように正確に測っていたかは、はっきりとしていません。

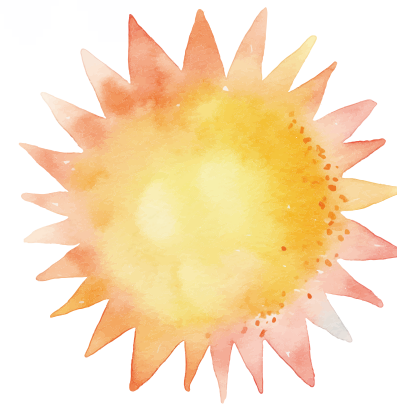


※当時の場所
から移動されて
います。



方位を定めるため、星見は船をこぐ道具である櫂（かい）でも行われてきました。

星と同じように、
太陽の動きや月の角度からも季節を把握し、
くらしや作物の計画に役立ててきました。



太陽に季節を観る

昼間がもっとも短く、夜がもっとも長い冬至は季節の原点であるとして、その日を正確に把握して人々で共有するために、冬至の前日、日の入りと同時に菜種油が入ったあんどんに火をつけ、冬至の日の日の出と同時に火を消す「ユーマチ」という行事が行われてきました。菜種油の燃える量を数値化して確認していたでしょう。

月に雨を観る

三日月を盃（さかずき）と見立て、この盃が傾くと雨が降ると伝えられてきました。

もっとも上向きになるのは春分の頃で、その後ゆっくりと左側に傾いていきます。この頃に、ウリズンの雨やユドゥアミ（梅雨）の時期を迎えます。

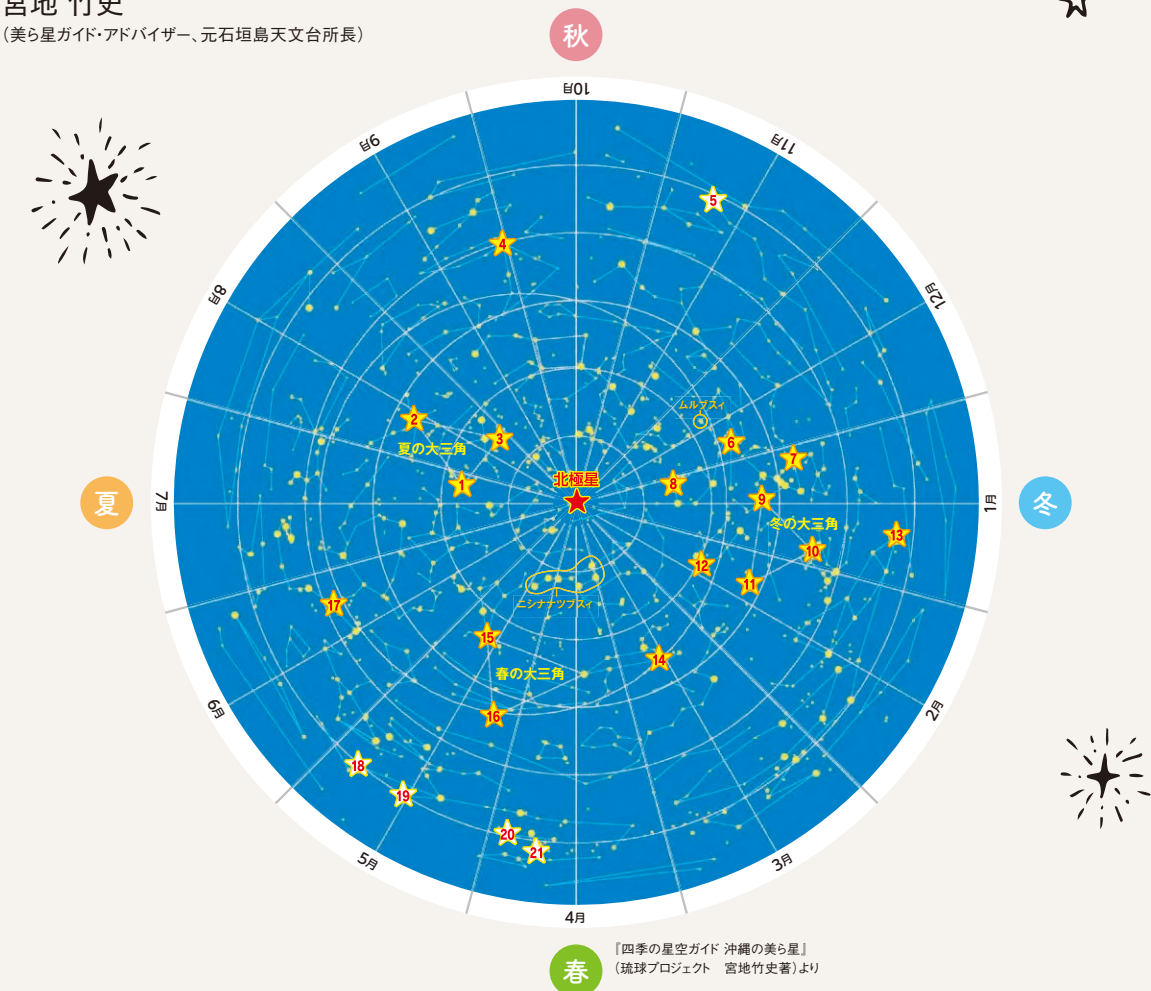
もっとも盃が傾くのは秋分の頃で、ちょうど秋雨前線の時期。その後、徐々に盃は上向きになっていきます。



コート盛（高登盛）は、琉球石灰岩を積み上げた火番所で琉球王朝時代に建てられました。異国船などが来た際に「のろし」をあげることで隣の島から島へと伝達リレーが行われ、石垣島にある王府の出先機関蔵元へと伝達したといわれています。そのコート盛のてっぺんには島々の位置や天体の方向を測ってきたと思われる方位盤が残されています。

波照間島のくらしと星

宮地 竹史
(美ら星ガイド・アドバイザー、元石垣島天文台所長)



波照間島では21個の1等星のすべてを見ることができます。

下の表は、星座表に1～21の数字のある星の名前と星座(明るい順)。
☆は、本土では見られない1等星です。

明るい順		図中の番号	
1	シリウス	おおいぬ座	★
2	カノープス	りゅうこつ座	★
3	αケンタウリ	ケンタウルス座	★
4	アルクトゥルス	うしかい座	★
5	ベガ	こと座	★
6	リゲル	オリオン座	★
7	カペラ	ぎょしゃ座	★
8	プロキオン	こいぬ座	★
9	ベテルギウス	オリオン座	★
10	アケルナル	エリダヌス座	★
11	βケンタウリ	ケンタウルス座	★
12	アルタイル	わし座	★
13	アクルックス	みなみじゅうじ座	★
14	アルデバラン	おうし座	★
15	スピカ	おとめ座	★
16	アンタレス	さそり座	★
17	ボルックス	ふたご座	★
18	フォーマルハウト	みなみのうお座	★
19	デネブ	はくちょう座	★
20	ベクルックス	みなみじゅうじ座	★
21	レグルス	しし座	★

〈波照間島のくらしと星座の早見盤〉ダウンロードできます



波照間島の四季の星々

日本の最南端の島、波照間島は、日本一の星空が見られます。天の川は、夏の夜空に南の端まで、もっとも長く伸びています。本土では見られない南十字星やペープスイ(ケンタウルス座のα星とβ星)、秋の1等星アケルナルも見え、21個の1等星すべてが見られます。そして、この星々には、島のくらしから生まれた波照間島ならではの星物語があるのです。

春

春は、南十字星とペープスイ(ケンタウルス座のα、β星)です。星座の中でもっとも小さな星座、みなみじゅうじ座の明るい星4個が十字架の形に見える南十字星。大航海時代に船乗りたちが、長い航海の安全を願った星です。波照間島では、南十字星の東に明るく輝く二つの星ペープスイが、よく知られています。初夏に波を穏やかにし、カツオ漁の始まりを教えてください。6月の稲刈り、12月の田植えの準備の目安にもなっています。南の空には、真っ白く真珠のように輝く星、おとめ座のスピカや、台形の形をしたからす座も見られます。「春の大三角」も探してみましょう。水平線の上に横たわる天の川は、本土では見られない星景です。

夏

梅雨明けの宵の南の空にS字の形をしたさそり座が、天に昇る龍のように見え、夜半近くには、南から北へみごとな天の川が長く流れています。さそり座の尾は、釣り針の形に見えるので「イユチャープスイ(釣り針星)」と呼ばれます。さそりの心臓とされる赤い星アンタレスは、「ビタコリプスイ(酔っぱらい星)」で、泡盛(島酒)を飲み、顔を真っ赤にしたオジイで、夜な夜な釣り針を天の川に下ろして、ウナギ釣りをしているそうです。針の先が天の川に入っている暗黒部分がウナギに見えます。こと座のベガ(織姫)、わし座のアルタイル(彦星)、はくちょう座のデネブを結ぶ「夏の大三角」も見事です。8月のペルセウス座流星群も必見!

秋

秋は、1等星アケルナルを見よう。「秋の星空の1等星は1個だけ、みなみのうお座フォーマルハウトしか見えない」とされていますが、波照間島ではもう1個の1等星アケルナルが見えます。これで21個の1等星を全部見たことになりますね。波照間島でこそその星空体験です。9月には、中秋の名月(旧暦8月15日)をフチャギ餅を食べながら眺めるのが島のお月見です。満月は、ウフツキ(大月)といいます。十三夜の月は10月(旧暦9月13日)で、この二つの月を愛でるのが古来のお月見です。八重山民謡「月ぬ美しや」では、「月の美しいのは十三夜、娘の美しいのは17歳」「八重山、沖縄を平和に照らして」と謡われています。

冬

冬は、1等星が多く、美しい星空が見られます。ぎょしゃ座のカペラから、オリオン座のベテルギウス、リゲル、おうし座のアルデバラン、プレアデス星団(ムリカブスイ、すばる)、こいぬ座プロキオン、おおいぬ座のシリウス、そして長寿の星カノープス(南極老人星)は必見です。ベテルギウス、プロキオン、シリウスを結ぶと「冬の大三角」です。よく見ると西の水平線には、まだ「夏の大三角」も見えています。冬は夜が長いので、暖かい波照間島では、ゆっくり流れ星を見るのもよいでしょう。11月のしし座流星群、12月のふたご座流星群、1月のしぶんぎ座流星群はおすすめです。薄く流れる冬の天の川も神秘的です。

☆1年を通じて見たいのは……

北の空で動かない星「ニヌファブスイ」を見よう。ニシナナツブスイ(北斗七星)の柄杓、カシオペアのW形の星の並びから、探しましょう。沖縄の県民歌「ていんざぐぬ花」では、「ニヌファブスイは、夜の海を航海する船の道しるべ、私を生んでくれた親は、人生の道しるべ」と、親を敬うことの大切さを謡っています。

解説:宮地 竹史(美ら星ガイド・アドバイザー)

竹富町 星のサイト「見上げれば聞こえてくる 島々の『星物語』」
<https://taketomi-shimajikan.okinawa/starrysky>



星降る島 波照間島のくらしさんぽ

島みんなが紹介する波照間島の
おすすめの☆☆☆スポットを紹介します。

星みっ！



令和5年度波照間島観光拠点
施設意向調査事業「はてま
星空カレッジ」にて実施

ニシがキタ！



☆☆☆

ニシハマビーチ

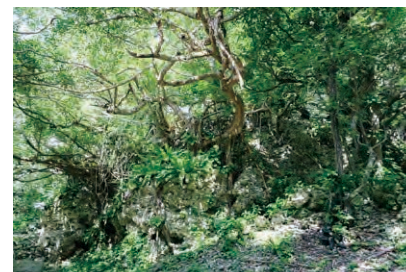
波照間ブルーが輝くニシハマビーチは八重山諸島でも屈指の美しさ。島みんなも大好き！なスポットです。
ニシは波照間島の島ことばで実は「北」の意味。北の方角にあるビーチなのです。



☆☆☆

ぶりぶち公園

島の北部にある下田原城跡につくられた公園。木々の木漏れ日がキラキラ光る、時が止まったような静かな空間にベンチが4つ不規則に置かれています。心を落ち着かせたいときに…。



☆☆☆

浜シタン群落

竹富町指定天然記念物にもなっている浜シタン。波照間島の西側の海岸でその群落を見ることができます。中には樹齢数百年に及ぶ大木も。自生する浜シタンの群落や古木が生育している場所は希少。

★マンホールにも
を見つけた！



☆☆☆

海洋ゴミステーション

きれいな海を
守ろう！

波照間港などに、島の人々がつくった海洋ゴミ専用のゴミステーションがあります。誰でも気軽にビーチクリーンができるようになっています。



☆☆☆

高那崎の断層

日本最南端の碑が立つ南東エリアにある琉球石灰岩が侵食されてできた「高那崎」。約1kmにわたって続く断崖絶壁の海岸は迫力満点！



☆☆☆

日本最南端の碑に向かう蛇の道

日本最南端の碑に向かう途中に、くねくねとした「蛇の道」があります。これは日本全国から集められた石でつくられたもの。2匹の蛇が絡み合うその姿は、「沖縄と本土が戦争で再び離れ離れにならないように」という願いが込められています。

くらすように旅をしよう

「果てのうま（サンゴ）」から名前がついたともいわれる波照間島。有人島では日本最南端に位置します。周囲14.8km、12.77kmの小さな島内には5つの集落があり、約500人が生活しています。
ここには農業を中心に昔から脈々と続く静かで素朴な暮らしがあります。ぜひ、島に到着したら島のくらしに思いを巡らせ、ゆったりとした時間の流れをお楽しみください。



★マナーを守りましょう

- ・島内で水着や上半身裸で歩かない
- ・キャンプ、焚火をしない
- ・立入禁止区域には入らない
- ・夜中に集落内で騒いだりしない
- ・バイクや自転車の交通ルールを守る
- ・ゴミは持ち帰る



【離島観光のみなさまへ】

島人が大切にしているものとは？
自然と暮らしと観光が良い関係であるために、
来島前に一度、特設サイトをご覧ください。

特設
サイト



竹富町

星とくらす 波照間島

2024年2月発行 竹富町自然観光課
「令和5年度波照間島観光拠点施設意向調査事業」の一環で制作しています。

監修：新城 勝／宮地 竹史（美ら星ガイド・アドバイザー）

参考書籍：
『竹富町史第7巻波照間島』
『八重山探検隊レポート集』（八重山探検隊著）
『波照間島』（加屋本正一著）
『四季の星空ガイド 沖縄の美ら星』（琉球プロジェクト 宮地竹史著）